



亀中だより

No.41 令和6年2月2日 文責:岡田



亀山中学校では、1月13日を「いのちの日」と設定し、毎年この日をきっかけとして一人ひとりが命の大切さを考える日としています。これは、今から15年前の2009年1月13日に当時本校1年生の生徒が交通事故で、さらに同年6月23日には当時本校2年生の生徒が鈴鹿川での水難事故で相次いで亡くなるというふたつの悲しい事故がきっかけです。一年間の中で大切な仲間を二人も失うという痛ましい経験をした亀山中学校は、二人のことを忘れることなく、命の大切さを語り継ぐために、最初の事故が起こった1月13日を亀山中学校「いのちの日」として大切に過ごしてきました。

この出来事は、3年生さえもまだ生まれたばかりのころの出来事であり、1,2年生にとっては、生まれる前の出来事という人も多いはず。生徒のみなさんが生きてきたのと同じか、それ以上の時間、亀山中学校ではこのことを大切に受け継いできました。今年も1月26日に「いのちの日」講演会を行いました。今回、保護者のみなさんに講演をお聞きいただくことはできませんでしたが、ぜひお子様から講演内容をお聞きいただき、ご家庭でも、命の大切さについて話し合ってくださいと思います。

亀山中学校「いのちの日」講演 鷺見三重子さん 「いのちの言葉プロジェクト」

1月26日、事故や事件で家族を亡くした遺族で命の大切さを伝えている「いのちの言葉プロジェクト」代表の鷺見(すみ)三重子さんを講師にお迎えして、亀山中学校「いのちの日」講演会を開催しました。

鷺見さんは今から26年前、当時高校1年生だったご長男の拓也さんを交通事故で亡くされ、その悲しい体験を皆さんに伝えることで交通事故の数を減らしていくことに貢献されています。平成22年からは「命の大切さを学ぶ教室」という学生を対象にした講演活動を行ってこられました。

講演は拓也さんの事故をきっかけに設置された信号機「命の代わりに信号機」のDVD映像から始まり、拓也さんの事故とその後の鷺見さんの生き方、考え方から、これまでの活動までをお話しいただきました。鷺見さんは、「息子は幸せの種をまき終えたんだと自分なりに答えを出し、加害者を憎む人生よりも、助けてくれる人や支えてくれる人がいる限りこれからも生きていける」と話されました。そして生徒へは、「社会のルールを守ること」「言葉を大切に使うこと」をメッセージとしていただきました。



「ありがとうステッカー」

いのちの言葉プロジェクト HP からお借りしました。

最後に視聴させていただいたDVDには、教育懇談会にお越しいただいたあつさんの「しあわせのたね」がBGMとして使われており、お二人に親交があることもお聞かせいただきました。さて生徒のみなさん、「いのちの日」はこの日だけのことではありません。鷺見さんのご講演から感じ取ったことをよりどころとしながら、日常生活を大切に過ごしていきましょう!

♪涙の分だけ花は咲く、笑顔の分だけ虹は出る。誰かの幸せ願う分だけ、あなたもきっと愛されてる♪

♪涙の分だけ花は咲く、笑顔の分だけ虹は出る。誰かの幸せ願う分だけ、あなたもきっと愛されてる♪

(あつさん「しあわせのたね」より)